

相談援助の理論と方法Ⅳ

専門教育科目 / 2 単位 / T 授業

担当教員 木村 匡登

■使用テキスト

社会福祉士養成講座編集委員会(編)『新 社会福祉士養成講座第8巻 相談援助の理論と方法Ⅱ 第3版』
中央法規出版 2015

◆参考テキスト

講義概要・一般目標

従来は個別援助技術(ケースワーク)、集団援助技術(グループワーク)、地域援助技術(コミュニティワーク)といった方法に細分化してソーシャルワークをたらえていたが、本科目においては相談援助なりソーシャルワークを統一したものとして理論的に捉え、学んでいくこととする。つまり、個人、家族、小集団・組織、地域社会をクライアントシステムとして捉え、どのような対象であろうと一つのソーシャルワーク過程で対応できるようにすることにある。ソーシャルワークを展開するために、それに付随する知識としての、スーパービジョンや、コンサルテーション、ケースカンファレンス、通信情報技術、個人情報保護の仕組みなどを修得する。

到達目標

- 1) スーパービジョンの意義と目的、スーパービジョンの方法、コンサルテーションの意義と形態、スーパービジョンとコンサルテーションの違いが説明できる。
- 2) ケースカンファレンスの意義と目的、ケースカンファレンスの展開過程について説明できる。
- 3) 個人情報の考え方、個人情報保護制度、相談援助における個人情報の保護の課題について説明できる。
- 4) 相談援助における情報通信技術、情報通信技術活用の留意点について説明できる。
- 5) 事例研究の目的と意義・留意点、事例分析の目的、意義、方法について説明できる。
- 6) 相談援助の実際について、事例を用い援助の過程や方法について説明できる。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

学習指導

第9章 スーパービジョンとコンサルテーションの技術

この章のポイント

ソーシャルワーカーが様々な困難を克服し、クライアントに対してよりよい援助を提供するために専門職としてより高いレベルの知識・技術・価値、そして実践力を身につけることが可能となるような、ソーシャルワーカーに対する援助・助言などの方法を学ぶ。

第10章 ケースカンファレンスの技術

この章のポイント

ケースカンファレンスは、常にクライアントの生活をより豊にすることを目指して行われるものであり、と同時に専門職としての成長の機会としても重要なものである。ケースカンファレンスの意義や目的、展開過程を学ぶ。

第 11 章 相談援助における個人情報の保護

この章のポイント

クライアントの生活と権利を守り、支えていくために、個人情報にどう向き合い、いかに保護し、活用するのか。個人情報の保護制度のあり方やその基礎となっている考え方を学び相談援助における個人情報の保護の基礎的な理解を図る。

第 12 章 相談援助における情報通信技術(ICT)の活用

この章のポイント

相談援助業務におけるパソコンや情報システム、インターネットの利用が一般化するなど、近年、業務のあり方や取り組みの変化が著しい。福祉情報の状況について概観し、相談援助業務における ICT（情報通信技術）の活用に対する理解を深める。

第 13 章 事例研究・事例分析

この章のポイント

ソーシャルワーカーには、自分の実践を振り返り、より質の高いサービスを提供する責務があり、そのために常に自己研鑽を怠らない努力が求められている。自己の専門性を高める方法として、事例研究・事例分析の目的や意義、方法、留意点について学ぶ。

第 14 章 相談援助の実際

この章のポイント

具体的な事例を用いて相談援助の実際を理解する。相談援助の基本的視点やマイクロレベル、メゾレベル、マクロレベルへの働きかけ、社会資源の活用、人間関係の調整や連携・組織化など幅の広い援助のあり方を実感し理解する。